

表題：第17回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成26年9月16日（火曜日） 18時40分から20時30分
- 2 場 所 町民会館第1会議室
- 3 出席者 （構成員） ※以下出席者について敬称略
加戸佐織、古宮郁夫
（事務局）
栗原裕之（住民部長）、古川実（住民部地域課長）、水村探太郎（住民部地域課地域係長）、吉岡佐知代（住民部地域課地域係主任）、福島聡（住民部地域課地域係主任）
- 4 欠席者 （構成員）
榎本和己、香取幸子、川口尊、近藤隆幸、清水久央、中沢清、野本多恵子
（瑞穂町協働施策推進アドバイザー）
辻山幸宣
- 5 議 題 1 協働宣言の実現に向けた提言について
2 その他
- 6 配付資料 1 次第（当日配付）
2 第16回瑞穂町の協働を考える会議まとめ（事前配付）
3 ワークショップ 参考資料（事前配付）
4 ワークショップの流れ（当日配付）
5 まとめ用紙（当日配付）
6 宣誓までのスケジュール（案）（当日配付）
- 7 開会
古宮座長
- 8 あいさつ
栗原部長

議題1 協働宣言の実現に向けた提言について

事務局からの説明

- ・ 「NPOや地域団体、行政が共通に出会える場づくり」及び「職員の意識改革」をテーマにしたワークショップを実施

【質疑】

- ・ NPOはどういう組織でどういう利点があるのでしょうか。例えば、税

制面とか補助金面とか、NPOを設立することで恩恵などがあるのかどうかですね。NPOではない地域で活動している団体との差が分かっていると、今回のテーマにも影響すると思いました。今日来ていない方にも示していただければと思います。⇒（事務局）NPOとは、営利を目的とせず社会貢献活動を行っている市民活動団体です。営利を目的としませんが、得られた利益を構成員に分配しなければ、特定の事業について収益をあげることができたと思います。

NPO法人を設立するためには、都道府県の認証が必要ですし、定款を提出する必要もあります。団体なので、年間の活動計画もありますし、予算決算も出さなければなりません。請負契約なども取り交わすことができますから、税務署にも届出することになります。任意の団体と大きく異なる点は、定款を定めていることや都道府県の認証を得ているといった社会的信用度があることだと思います。

指定管理者制度について、指定管理者になるものは2人以上であれば名乗りを上げられます。そこには法人格があるとかは一切関係ないのですが、行政が発注するときに、その団体に任せていいのか判断するには、社会的信用度に重きを置くという形にはなると思います。

- 瑞穂町の体育協会がNPO法人の資格を取得したときに手続的なことで町はどのような指導を行ったのでしょうか。⇒（事務局）社会体育課が指導したと思います。現在、福祉の部門で学童保育クラブの運営をNPOに担ってもらおうという動きがあります。新たなNPO団体にやってもらうのではなく、現在、指導員として町と雇用契約を結んでいる方々がNPO団体となり、運営してもらおうということです。
- 町の組織として、NPOの設立の相談窓口はどこでしょうか。⇒（事務局）本来なら地域課だと思いますが、NPOの設立の目的が、例えば介護関係であれば福祉の担当が主になると思います。瑞穂町にあるNPOは、まちづくりより福祉に特化したものがほとんどです。
- 23区や他の市町村になるとボランティアセンターがサポートしているところがありますね。NPOの設立は会社を設立するのと同じです。非営利活動になるので、税制面で優遇される所と、販売などをして得た利益について税金がかかる所の経理を分ける必要があります。
- NPO自体が瑞穂町の場合ほどの程度のレベルなのかが分かっている

ば、議論の中に活かしていけるのではないかと思いました。

- ・ 予算を東京都から受けて、誰がやったらいいのか分からない困り事を中間支援機関と対応しているところがありますね。予算化して事業計画を立てて運営していく訳ですが、日野市は、子ども向けの事業を行うNPOがあり、年商1億くらいのお金が動くくらいの予算を国や都からの支援も受けつつ、学生のボランティアが、子ども達や地域に役立つとことを株式会社のような形でやっています。それが、子ども向けの事業を補っているというか、子ども向けのキャンプなど子ども会の世話をやっていた人がNPOのことを幅広くやっているようです。
- ・ 手順を上手くやると関連性やつながりがある程度見えてくる可能性もありますよね。

※ ワークショップを実施しました。

※ テーマは、①NPOや地域団体、行政が共通に出会える場づくり、②職員の意識改革

※ 出席者が少数であったことから1班編成としました。

【ワークショップにおける議論の記録】

※ 会話の流れにもとづいて記載しています。

※ テーマに関する意見をマーク（●：共通に出会える場づくり、▲：職員の意識改革、■：その他）で区別をしています。

- ・ ●9月13日に箱根ヶ崎駅前で行われた「夕方市」について、開催のきっかけなど教えてもらえますか。⇒月に1回、サークルのような形で、フリマで売りたい人やバンド演奏、その他来てみたい人の場をつくりたいと思って始めたのですが、なかなか町の人が入ってくることがないまま、ほぼ3年が過ぎる状態でした。JAを借りてやっても、そこでの情報交換や交流のことよりも、そこに人が来ないと儲からないということから、入ってこない人も多かったです。

瑞穂ブランドの方と一緒に町のイベントなどに出るようになると次第に人も増えてきて、いろいろ話をする機会も増えていきました。そんな中、今年のイルミネーションの点灯式を実施する際、「今回は人が集まって、

楽しめるようなことをやってみてはどうか。」という話があり、それで瑞穂ブランドの方とステーションMと一緒に、ちょっとした販売や楽しく食べてもらえるようなものを提供しました。そのようなことがあったので、ステーションMだけでは町の人を呼びこむのは難しいという思いと、瑞穂ブランドの方たちも自らイベントを企画してやるのは難しいのかなという思いから、お互いに一緒にやればお互いに持っているものを出し合えるのではないかということでした。

町に顔を貸してもらえよう話をして、瑞穂町らしさを出せば良いということで、大滝永一さんのコーナーを出してはどうかという話も出たり、工業の方も一緒になった形のもののできたら良いという話もあり、名前は夕方市となりました。

町に申請を出すときには、誰もが入りやすくなったら良いのではないかとということで、チーム瑞穂という名前を付けました。

1回目の会議で、団体名とその代表・副代表が決定しました。商工会でも、工業部会と商業部会がほとんど交流することがない中、声を掛けたことで、工業・農業関係の方が出てくれるようになりました。工業の方と話をしたときに、地域の活動に入る場がないという話がありましたが、今回は割と自由度が高かったので楽しみますということでした。

- 最初は場を提供したんですよね。ただ、場を提供したときに、その場に来てみたり、販売とか自己表現したい人は来ますが、それ以外の人を巻き込むことができなかつた訳ですよね。⇒そうですね。なかなか地域の人を巻き込むのも難しく、今回代表を務めていただいた方は町内会のことも詳しく、町内に広めるのであれば回覧板が良いということですぐに動いていただきましたし、町の中にポスターを貼るのも手伝っていただいたのですが、広がりがあったです。そういう意味で、一緒にやると町の中での広がりはずごいなという思いが強かったですね。
- 今回のテーマに「共通に出会える場づくり」ということで「共通」という言葉が入っていますよね。「共通」という言葉を謳っていなくても自然とつながってくるような形にはなるんですよね。⇒そうですね。出会える場というのは相当分断されているような気がします。たまたま、回廊計画の観光部会のときに、子ども会の話も聞きました。垣根を越えることが良いのではないのでしょうか。

- そもそも場がないのか、場を使うことに障害があるのか。内容によっては借りられないのでしょうか。⇒町だと営利目的だと借りられません。誰もが交流できる場としてのコミセンが、機能を果たすためにはまだまだ改善の余地があると思います。
- ▲施設よりもそれをコーディネートする人材が重要なのではないかと思います。瑞穂町では施設は飽和状態ですし、これ以上新しい施設をつくるという財政的余裕もありませんので、いかに活用するかですね。
- ▲既存の組織との距離感をどのようにして掴むのかも重要であると思います。既存も新たなも含めてですが、横のつながりをどう持たせるかですね。団体はそれぞれの目的意識で集まっています、それはそれで良いのですが、他との関わりがないところもありますよね。
- ▲コーディネーターといいますと個人のような感じになってしまいますが、持ち家同士をコーディネートしていくことが必要ですね。
- 夕方市はお祭りの要素もあれば、産業の振興という目的もあつたりする訳ですよ。渾然一体とした中で、整理されて動いていると思えました。
- ▲職員の意識改革としても、コーディネーター役を職員が少しでも務めることや、協力していくことができる感覚になれば良いと思います。
- ▲施設の利用についても、こういう方法でやれば使えるというような知恵を出してもらったり、お金を出してもらえると良いのではないのでしょうか。
- 町内会の加入率がどんどん下がっていますよね。加入すると役員をやらなければなりません。役員をやるからには、組織を動かさなければならない訳です。役員をやってくれる人がいて、その人の周りの皆が仲間であるという意識があれば、もっと広げていけるのかなと思います。人材の部分が大きいような気がします。
- ▲前回の会議での辻山先生のお話で、自分の学生を連れて浅川の清掃をしたときに何が残るのかといたら、参加した個人の達成感・満足感だとありました。そういったことの広がり程度で良いのかなと思います。そこ

の広がりを持たずに、あまりにも大きく地域起こしということでやってしまうと、とても敷居が高くなってしまいます。参加している人それぞれが共通の価値観がベースになければならないと思いますが、満足度や達成感は一それぞれで良いかと思いますが、それはあくまで住民の目線であって、我々行政側から見ますと、いい加減であっては困ってしまうというところに重きを置いてしまいます。公金を扱う以上、一定の責任感とか目的達成というものが課されることになります。

- ▲国や都道府県レベルになってくると、NPOに対して支援というか協働という形で予算が付く訳ですが、瑞穂町で協働宣言をして、提言をいただきましたということで、協働関係の予算がすぐに付くかといったらなかなか難しいと思います。
- ▲事業計画も、地域の中での優先順位や、いかに効率良く計画的に行われたかどうかの見極めや、それが本当にニーズとしてあるのかもチェックしていかなければならないと思います。
- ▲NPOの活動をきちんと公平公正に評価ができて、予算を振り分けられるかどうかですよね。職員の意識改革というよりは、職員の見識を高める必要性もあると思います。そうしないと協働も進まないのではないかと思います。お互いに責任を共有するという事は、そういうことなのかなと思います。
- ▲町の組織ごとに専門性や手続などに精通した方が必要ですよね。専門的な知識が必要な訳ですから、住民と同じものを期待することはできません。そこに、職員との関わり方の難しさというのものもあるかもしれません。
- ▲国の法律などで各セクションが分かれているので、なかなか難しいとは思いますが、町の組織に横串が入るかどうかが大きなところですね。最近ちょっと下火になってしまいましたが、組織内の部、課、係を止めて、グループ制を導入したところもあったようです。現在では戻しているところも結構あります。
- ●共通に出会える場について、「それぞれが思っているけど、どこに行けば分からない。」という人がいると思います。それで、自分と同じ考えを

した人を見つけられることが、住民が参加しやすいことにもつながると思うのですが、それでいくと、小平市では「こだいら未来会議」というのを協働事業として予算化しています。それは、「Mystyle@こだいら」というNPO法人、こだいら未来会議で、例えば子育てに良い町になって欲しいと思うお母さんが集まるとか、老人に優しい町が良いとか元気な商店街をつくりたいなど、共通のテーマについてグループごとに話し合っています。それを「こだいら未来week」というイベントの週間において発表しているようです。自分は子供のことをやりたいとなったら、コミュニティセンターにお母さん方が集まってヨガ教室をやるとか、いろいろ教えたい人たちが集まるとか、NPOが主となってイベントをやっています。

いろんな人たちが出会えるための場づくりというのを行政がやるのか他がやるのか分かりませんが、仮に行政がやるのであれば、それぞれのニーズに合わせて寄り添うための専門家をどのようにつけていくかというのが、1つのステップになるのかなと思います。農業でも商業でも垣根をなくし、瑞穂町がこんな町だったら良いのではないかという共通認識した人がいれば割と越えられると思います。そういう意味での仕掛けみたいなものやコーディネーターがいないといけないと思います。Mystyle@こだいらの活動も今まで実績もあって、うまく人をやる気にさせるというか、やりたいことに対してこういう知識があれば町内でやっていけますよというような仕組みがないと難しいと思います。

- 場があってもどうやって人を集めるのかというときに、例えば子ども関係だったら、子ども会関係だったり教育関係の人だったりしますが、そうではないところの人も来てもらえるようにするということでは、子どもフェスティバルなんかは割りといろんな人が関わっていますよね。
- 最終的には協働を考える会議は、長期総合計画の実現を一番に置いている訳で、そこに関わって活動している人がその長期総合計画の中に取り上げられているような項目に対して、どう関わっていくかということに持っていかなければならないと思います。集まって、楽しかったねというのでも良いのですが、そこから先の町づくりというところにどのようにして結び付けていくかが一番難しいところですが、なにしろ人が集まらないことには仕様が無いですよね。
- 瑞穂町の投票率の低さや関心のなさもそうだろうし、本当であれば地域

と行政との橋渡し役なんかも議員さんが一番動いてもいい立場なのかなと思うんですよね。そこでうまくコーディネートして、地域の効率の良い事業の持って行き方をすることがあると思います。

- 場があってもどう使うかによりますが、使うかはどうかは人が決めることですからね。使う人、まとめ役となる人がどう育て、人数をある程度増やしていけるかということと、出会える場の中で経験を積んでやっていくことと、どちらが先になるのかという話にもなってきますよね。
- ▲フリースペースがあって、情報発信や情報交換ができる場合はハードとして当然必要ですよね。そういう場をつくったからといってすぐに進むかということとそれも難しいですから、コーディネートする人と両方が必要となってくると思います。
- コミセンの運営委員会でも、年間の利用率をまとめてどう利用されているのか見ますが、稼働率からもこれだけのものをつくただけの価値があるのかというと、まだまだ足りないと思います。
- スポーツ施設と考えたときに、瑞穂町以外の方が利用しているのもコミセンの場合はあると思います。
- 町民よりも、他所から来ている人の数の方が多いこともあるみたいですね。それは広域行政で考えいかないとなりませんね。
- 防災パトロールや防犯パトロールは地元の方々が会う場所ですが、それに町から補助金を出していることは出会いの場とは言わないのでしょうか。⇒それが間接的にでも出会いの場につながっていけば良いのではないのでしょうか。単純にその活動だけの為に補助金を出しているのかどうか問題になってきます。
- 防災パトロールや防犯パトロールは安全安心まちづくりの底辺を支える部分だと思います。ある程度条件を満たせば補助金が出て、またそれで活動できるということですね。
- それぞれの活動もトータルで考えると、例えばシルバー人材センターが

剪定の技術講習で人を集めていますね。講習はそれで終わってしまうかもしれませんが、そのような生活の一部に関わってくるようなことはすべての人が関わっていくものですから、そのような企画した人たちが他のところでも集まって話せるような場所があれば良いと思います。

- シルバーまちかども位置的に良いところがありますが、利用時間が限られていますよね。
- ▲職務と地域の生活の関わり合い方となると職員の立場だと凄く考えてしまうところですよ。
- ▲青梅市では、住民課の窓口業務を委託に出していますが、行政の事務处理的なところとそうでないところと分かれるのでしょうか。例えば、違う人がやっても良いような事務处理的なもの、そうではなくて本来住民に寄り添う部分であるとか、軸足をどこに置くのかが違うと思いますね。⇒外部委託でどこまでできるかが一番問題になっているのではないですか。税金関係や所得に関するようなことは、守秘義務もあるでしょうし、なかなか難しいのではないのでしょうか。そういう仕事についている人は、ざっくばらんに地域に入っていくのもすんなりとは行かないと思います。ですから、私のように外から見ても全部が全部同じような関わり方をするようにというのなかなか難しいと思います。
- 職種によっても違うと思います。⇒（事務局）私は産業振興課を2回経験しています。2回とも農政関係ですが、最初の昭和61年からの4年間は、ものすごい量の情報が入ってきました。例えば、あそこの家で子牛が生まれたといった情報がどんどん入ってきましたし、我々も外に出たときにちょっと家に立ち寄りしたりしましたね。職員数もそんなに多くはなかったですが、農家数もはるかに多かった時代でしたね。2回目の平成10年には全く情報が入らなくなっていました。
- 15年くらいの中に大きく変わってしまったということですかね。お父さん世代から子ども世代になったからでしょうか。⇒（事務局）若干そういうこともあったでしょうが、お互いに許された時代であったのかもしれませんが。地方公共団体の事務が機関委任事務から自治事務に変わった関係で、仕事量が増えたということもあるのかもしれませんが。

- 昔から瑞穂町に住んでいる方だったら交流的なことは割りとあったのでしょうか。⇒（事務局）それが交流だったかというとは必ずしもそうではなかったと思います。
- 農業改良普及所とかそういうネットワークがあったからでしょうか。⇒（事務局）農協の経済がなくなり、普及員の数が減り、ほとんど回っていかなくなりました。お互いにこちらの情報を農協に流せば農協から違う情報をもって普及員に渡し、また農家からも聞くというすごいネットワークがありました。でも、そのネットワークが時代と共に分断してしまったというのは農政係にいて感じました。良い時代悪い時代という話ではありませんが、仕事のやり方と我々に求められていることも時代と共に変わってきています。
- ▲人の和をつくといいですか、ネットワークですよ。和をつくるのにも場が必要ですし、そういう場がうまくつくれるかということですから、そこから町づくりの事業につなげていく、注視していくということでしょうか。場所と人の会話が今回の夕方市のような活動になった訳ですよ。
- 夕方市をやっていく中で、今までまったく交流がなくても、手を組んでやってみないかという声掛けができるタイミングもあると思いますし、そういうタイミングがあったから今回のようにできたんですね。
- 地元の方の反応がないという経験から生み出したものが今回の夕方市という訳ですから、動き方としては実績があったのではないのでしょうか。だから、まずはそういうことをしていくということが大事ですよ。先程話がありましたように、いかに組織に横串を入れていくかということにもなると思います。
- 3年間やってなかったら、多分広がるかどうか分かりませんし、今までやってきたことで、「一緒にやってみるか。」と思ってくれた人もいたのかもしれない。続けている人がいても、うまく出会わないものだと感じました。偶然にも隣り合って、「前にやったことがあるから、今回もどうですか。」と声掛けをしたら、「楽しかったのでやります。」という話になりましたが、全部が全部そういう訳ではありません。

- 継続は力なりではありませんが、続けていくことが重要ですね。
- 活動している方で、地域のお年寄りなどにも役に立ちたいと思う方がいれば、福祉に関係するような方と上手く組めれば、それでまた新しく健康づくりみたいなのもできるかもしれません。個人個人がどういうことを考えているか分からない状態ではつながりようがないと思います。
- 1歩踏み出す勇気がなかなかないのではないですか。
- 夕方市をやってみてもどれだけの人が来るか分からない訳ですが、とにかく今までにないイベントにしたいというのと、他所からも来てもらいたいというのもあったので、会場も駅前から歩ける場所が良いということであの場所になりました。1回目にどれくらい人が集まるのか分からないので、私が声を掛けてやっていただいた方、断った方、それぞれ結構いましたが、蓋を開けたらすごいことになりました。「どうなるか分かりませんが、一緒にやりましょう。」という気持ちをどれくらいの人が持ってくれるかというのも大事だと思いました。

今回参加費を3千円にしていますが、途中から参加費としてではなく、協賛金として、一緒にこのイベントをつくろうという趣旨にしました。準備の段階でも、今回はせっかくなので行政の力を借りずに自分たちでステージもつくりましたし、お金も自分たちでやりくりしました。いろんな方にお手伝いをしていただいたり、トラックを借りていただいたりと、1回目とは違う形でできたと思います。来場者はいましたが、続けていくには課題が多いと思っていて、2回目やるにしても参加した人と話し合ったりすることになると思います。
- 結果が良かったから2回目をやるということもありますし、悪かったところを改善してもっとできることを話し合うのか、どちらにしてもつなげた方が良いと思います。
- 1回やってみないとどちらの方向も出ないですよ。
- ▲先程NPOの話が出ましたが、どうすればNPOを設立できるのかなどのサポートを青梅市や八王子市では行政が協議会的なところに委託し

で行っているようです。このように、窓口として調整してくれる機能がどうしても必要になると思います。場所・組織があつて、そこを足がかりに関わってくれる人が増えてくれば、それは逆に人の育成にもなると思います。ただ、取っ掛かりのときに足がかりになる場所がないと何も始められなくて終わってしまったり、個々の活動がつながらなかつたりするので、ネットワークの中で面倒を見てくれるところが必要になるのではないのでしょうか。

- ・ ▲協働の担当がないと推進ができないような気がしますね。
- ・ ▲職種による立場的なものもあるので、最終的には思いやりがいかにか持てるかどうかではないでしょうか。それぞれの立場を理解して、見方とか捉え方というものがある程度皆さんにもお知らせして、誤解があれば誤解を解いていくのが必要だと思います。職員も関わりがありますし。
- ・ ■野菜や花を販売するにしても、夕方市では、無料ではなくお金を払って買ってくれました。無料でもらっても、それだけで帰ってしまうとかありますよね。ペットボトルも相当持ってきてくれたんですよ。
- ・ ●無料だからもらいに来ると、その場を楽しみに来るとの違いがありますよね。
- ・ ●無料で行くから、動員されているように見えますが、それだけもらって帰ってしまうという感じですね。こういったことは結構多いと思いますね。
- ・ ■産業まつりでは、青信の奥でファントムがやっていますよね。特許になるようなものを全国から募集したりする訳ですよ。そういうことをやっているというアピールがうまくできれば良いと思います。
- ・ ●産業まつりのメインストリートのところを担当している人も終日いる訳ではなく、野菜が完売すると担当者もいなくなってしまうのは、なぜだろうということになりますよね。協働を考えるのであれば、産業とかの垣根も越えた中で、町にとってどういうことが一番PRになって、町の人や他から来る人に分かってもらえるようになれば良いですね。

- ・ ■分担をして中身を入れ替えるという作業をすれば、そのような印象を与えなくて済む訳ですから、計画の仕方もあると思います。
- ・ ●▲対等とは何かという話と一緒に作り上げているという感覚があるのかということですね。産業まつりもそうですが、行政が行っている無料のサービスにもメスを入れないと、高度経済成長から始まって右肩上がりの中でやってきたことを今後も続けていくのかということですね。
- ・ ■地方では水道管の老朽化が問題となっていて、水道管が4、50年経っているところでも、過疎化で人が減っていくため水道の使用量が減りますが、配管は取り替えなければなりません。水道の収入で運営が成り立っている訳ですが、結局は赤字です。人が減って水道の使用量が減っているのに配管は変えなければならない、だから水道料金も上げなければならない。そういうことが起きてしまっていることも気がついていけないといけません。

結 論

- ・ まとめについては、口頭で出していただいた意見も含め、会議後にまとめたものを後日委員の皆さんに配付してご意見をいただくこととしました。

議題3 その他

事務局からの説明

- ・ 資料5にもとづき今後のスケジュールの中で、署名式を行いたい旨、11月の産業まつりにおいて宣誓式を行いたいので出席していただきたい旨報告
- ・ 次回の会議日程を調整

その他

- ・ 11月8日の宣誓式には委員さんにも出ていただきたい旨を早めに連絡委員の名前がホームページの会議概要を見ないとどこにも出てこないため、今後PRに努めること。